

先生が つながる

幼児教育施設や小学校の管理職、幼稚園教諭、保育士、保育教諭、小学校教諭等の「先生」が連携し、それぞれの教育について理解を深めることが大切です。幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります。

お互いの保育・教育、 子供の育ちや学びを理解し合おう！

幼児期の教育

- 【ねらい】 方向目標
【カリキュラム】 経験カリキュラム
【方法等】
- ・個人、友達、小集団が中心
 - ・幼児自らが環境に関わって展開する生活
 - ・ねらいや内容を「遊び」を通して総合的に達成する保育

円滑な接続のために

- ・接続期を意識した幼児期の教育の充実
- ・小学校における生活や学習の工夫
- ・育ちや学びの引継ぎ

小学校の教育

- 【ねらい】 到達目標
【カリキュラム】 教科カリキュラム
【方法等】
- ・学級、学年が中心
 - ・時間割に基づく生活
 - ・教科等の目標、内容に沿って選択された教材による授業

見てみよう（保育・授業参観）

- 園所内研修会・校内研修会や参観日などの機会を利用
- 他校種研究会へ参加

飛び込んでみよう（体験実習）

- T・Tの形で授業参画
- 夏休みを利用して1日保育体験

対話・協議・議論

「なぜ」を出し合う学び合い
お互いの捉え方のすり合わせ

共につくろう（交流保育・授業）

- 接続期のカリキュラムと一緒に
- 保育案・学習指導案づくりから考察までを一緒に

共に学ぼう（合同研修）

- 保育研究・授業研究
- 理論研究（保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・学習指導要領の読み合い）
- 得意分野を生かした実技研修

伝えよう（連絡協議会）

- 育ちや学びの引継ぎ

- ◎ 学びの見通しと履歴を知り、発達の段階に応じた保育や教育を充実させよう。
- ◎ 各段階の独自性を尊重し、配慮すべき段差を見極めよう。

「なぜ」を出し合う関係づくり

- ◎ **お互いの疑問はつぶやいてみよう。**
→ **出し合うことが、学び合いの第一歩です。**

直接顔を合わせるときに・・・
Web 会議システムで・・・
電話連絡の際にも・・・

先生が
つながる

● 幼児教育施設の先生から ●

- Q 決められた時間の中で、ねらいは絶対その時間に達成しなくては行けないの？
Q 入学すると、すぐに「教科」に区切って学習をしているの？
Q 幼児と児童の交流では、幼児はいつも「お客さん」だけど・・・一緒にできることはないかな？
Q 評価規準ってどういうこと？

● 小学校の先生から ●

- Q 子供たちがみんな違うことをしているのに把握できているの？ 何を支援したらいいの？
Q ただ遊んでいるだけに見えるけれど、そこで何が育っているの？
Q ○○ちゃんは毎日同じ遊びばかりしているけれど、それでいいの？
Q 「幼児教育は環境を通して行う」ってどういう意味？

● お互いに ●

- Q 「学びのつながり」って、どういうこと？

できることから始めよう

多くの園・所から入学するけれど・・・
距離が遠いけれど・・・忙しくてゆとりがないけれど・・・
コロナ禍で、十分な交流ができないけれど・・・

① 「育てたい」子供の姿を共有しよう。

- ・ 「10の姿」を手掛かりに、子供の育ちを見通したり、子供の学びについて共通理解を図ったりしよう。

② 年間の見通しをもち、交流活動を教育課程に位置付けよう。

- ・ しっかりとした「ねらい」をもち、PDCAサイクルで次の活動への改善につなげよう。

③ 全教職員で取り組もう。

- ・ 5歳児と1年生の担任だけでなく、園・所・学校全員の先生で取り組み、接続期のカリキュラムや指導のポイントを共有しよう。

④ 保護者や地域へ連携のねらいや成果を発信しよう。

- ・ 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「保護者とつながる」「地域とつながる」教育を実現しよう。